成田市文化振興マスタープラン策定委員会会議録

（H25 第 1 回）

1　開催日時

平成２６年３月２８日(金)　午後２時～午後４時１０分

2　開催場所

成田市花崎町７６０番地

成田市役所　議会棟３階　執行部控室

3　出席者

(委員)

天沼理恵子委員、榎田伸一郎委員、大塚初重委員、後藤雅宣委員、小川栄委員（代理　新井とみ子）

(事務局)

関川教育長、諏訪生涯学習部長、秋山生涯学習課長、木川副参事、木内課長補佐
小川文化振興係長、麻生主査

4　議題

（１）委員長の選出について

（２）文化芸術振興に関する市民意識調査結果
及び成田市文化振興マスタープラン骨子（案）について

5　議事

（１）委員の互選により、委員長に榎田伸一郎委員、職務を代理する委員に天沼理恵子委員を選任。

（２）文化芸術振興に関する市民意識調査結果及び成田市文化振興マスタープラン骨子（案）について、文化振興係長から、資料に基づいて説明した後、自由討議を行った。

≪発言要旨≫

委員：文化芸術活動に参加している市民が約３割とのデータが提供されたが、仕事をリタイヤした高齢者においても「時間がない」が活動に参加していない理由となっているので、介護等によるものなのか他の理由によるものなのか、分析が必要と考える。退職してから、公民館を利用している。活動をしているのは、高齢者が中心で、子どもや若者は少なく感じる。又、ここ数年、公民館の対応が、使う側の身になってサポートしてくれていると感じられ、好感が持てる。更に、若者と高齢者を取り込むことは文化振興の観点で重要だと思う。

委員：若者や子どもが休日、家にこもってゲームをしている傾向は気になっている。

委員：行政として、成田市の文化振興活動をどうとらえているのか。実感を聞きたい。→事務局：２３年度から「ふれあいコンサート」等、従来行っていなかった事業も展開している。その事業が、即効性のある薬になるとは思っていないが、徐々に文化度を上げて行きたい。

委員：市内で文化財が多く出土しているが、収蔵されたままになっている。市民が見ることの出来る施設を長年要望しているが実現されていない。

委員：市内では、カルチャーセンターが５つあり、重複して、いろいろな事業を行っている。又、文化会館には食事をする所が無く、そこがデメリットと感じる為、施設には客寄せが出来る、セールスポイントを作った方が良い。更に、音楽のまちを目指すということであれば、実行委員会を組織したらどうか。公民館まつりも実行委員会形式で実施している。一生懸命行っており、色々な知恵が出てくる。地域の力で盛り上げていくことが大切ではないか。

教育長：単発的、打ち上げ花火的な事業が多く、人材を育む意欲、視点が欠けていたのではないかと思っている。その点、マスタープランも早く策定すべきだったと思っている。

委員：行政からのお仕着せではなく、文化を振興する側が提案者となり、自発的に連携・協働が行うことのできる「しかけ」が必要。

自分が携わっている自治体の活動事例を紹介する。これから豊かになっていく可能性は低いと考え、いかに、税金を使わずに文化振興を図るかという考え方で活動していると思われる。行政の「しかけ」づくりが上手だったと感じる。

具体的には、文化財を含めた文化、音楽、美術の部門で構成される組織として、「文化芸術振興審議会」が設立された。又、その下部組織として、各分野の特別委員会を置いた。すると、行政が企画したわけでもないのに、市民主体の活動が始まった。又、骨子（案）の２７ページで施策の体系が図示されているが、「④文化芸術振興ネットワークの確立」はもっと強調されるべき。

次に、形態や価値観が異なる芸術文化をつなぐ「しかけ」も必要。絵画教室の生徒の作品と日展に出そうとする作品のレベルは異なるが、価値は同じである。それぞれの価値を互いに認め合える環境をつくることが重要である。文化は既にたくさんあり、様々な分野の人々が集まり、忌憚なく語り合い、知り合える場を設定する必要がある。芸術論を交わせば、ぶつかり合うかも知れないが、「この自治体に、文化が市民の目に見える形で展開するにはどうしたらよいか共に考え、協力してください」と呼びかけることが、行政の最初の仕事ではないか。

市民の参加意識が低いことを問題視するのではなく、参加したい環境が作られていないことを問題とすべきである。

委員：佐倉市は城下町で、門前町の成田市とは文化の気風も異なっていると思う。又、市民レベルで派生した新しい分野や現代文化を組み込んでいくことが必要と思っている。

委員：市民の活動は行われているとは思っているが、行政の現状分析はどうなのか。

教育長：「しかけ」や行政として方向性を定める部分が足りなかったということはあ

るかも知れない。又、学校跡地を活用し、文化財保存展示施設を整えたいという考え方も持っている。

委員：学校跡地を利用した地域ぐるみの芸術祭なども行われており、市民レベルの活動が重要。

委員：自分自身は教育現場に身を置くものであるが、成田では文化への地ならし、人育てをして来なかったと反省している。教育者として責任を感じる。

委員：若い世代では、鑑賞から参加へと進んでいけるようなアートプロジェクトの流れがある。古いカテゴリーの文化振興から若い世代を取り込んだ形の新しいジャンルにも対応・理解できる方向性が大切。

委員：若者は映像文化に親しんでいる。教科書にも４コマ漫画が載る時代である。変わっていくもの、変わらないものを見つめ、成田市の文化芸術を見極めていく必要がある。

委員：今後の成田市の展開として、駅前文化施設において新勝寺と協力しつつ文化度を上げていくことが重要と思う。又、成田にしかない文化もあると思う。世代を巻き込んで、文化とは何だと考えるようにすることが必要。保存継承は重要で、生活レベルで取り込んでもらうことが必要。

委員：音楽においても成田市とそれ以外の地区の差がある。施設において、楽器の貸し出しがあり、それを使って市民が練習している事例や公民館が吹奏楽の練習会場となっている所もある。

委員：現在、小中学校は、授業の時間数確保に必死であるが、自分の携わっている自治体では、文化芸術活動が盛んになったことにより学力も向上したと言える。芸術には正解がないため、自発的に考えることが必要なのかもしれない。長いスパンで、子どもたちを巻き込んでいけるとよい。

又、学童保育も教育委員会が直接行う事業とし、地域の方を招いて、伝承活動を行っている自治体もある。

委員：市民意識調査結果から、行政はどうしていくべきと考えているのか。

委員：その取りまとめ結果が、骨子（案）の２１ページ以降なのではないかと思う。

委員：繰り返しになるかもしれないが、２７ページ最下段「文化芸術振興ネットワークの確立」には、連携・協働を一言入れたい。ネットワークは自然発生しない。うまい表現ができれば。

6　傍聴

（１）傍聴者

１名

（２）傍聴の状況

傍聴要綱に反する行為は、見受けられなかった。

7　次回開催日時(予定)

未定